

重要海域選定の考え方(案)

石西礁湖とその周辺地域の保安全管理を総合的かつ効果的に推進していくためには、あらかじめ石西礁湖において重点的に保全すべき海域(重要海域)を設定しておく必要がある。

重要性は、大きく分けて保全上の重要性(石西礁湖の生態系全体の健全性の維持・回復の観点からの重要性)と利用上の重要性(石西礁湖の自然資源を持続可能な形で利用していく観点からの重要性)の2つに分けることができる。さらに、効果的な対策の実施の観点から、対策ごとにそれぞれ必要な条件を考慮する必要がある。

1. 保全の観点からみた重要海域 生態系ネットワークの視点

- 1) 礁湖内及び近隣海域へのサンゴ幼生の供給源としてサンゴ再生産に寄与する海域
 - ・ 大型の群体が多く(高密度又は広範囲に)分布している海域
 - ・ サンゴ群集の回復・定着が進まない海域に対して幼生の供給源になっていると考えられる海域
 - ・ 大面積にわたり比較的被度の高いサンゴ群集が広がっている海域
- 2) 固有性の高いサンゴ群集が分布している海域等、生物学的重要性を有する海域
- 3) 白化、土壌流入、台風等による攪乱を受けにくい海域
- 4) 1), 2)の潜在的資質があるが、攪乱によりその特徴が損なわれている海域

2. 利用の観点から見た重要海域

- 1) 漁業利用
 - ・ 水産資源が豊富な海域
 - ・ 漁場として利用価値の高い位置・地形・海況の海域
 - ・ 魚類等生物の産卵場、幼稚子の生育場
- 2) 観光利用
 - ・ 利用頻度、代替性、景観資源の固有性において重要なダイビングポイント
 - ・ スノーケル、海水浴、海中展望船、グラスボートの高頻度利用海域

3. 対策の実施の観点からみた重要海域

- 1) 保護海域(海中公園地区、海面利用に一定のルールを定める海域等)
 - ・ 将来的に開発を行わない地域として関係者が合意すること
 - ・ 制度やルールが必要な保全対策や住民生活の妨げにならないこと
- 2) オニヒトデ重点対策海域
 - ・ 継続的な駆除作業が可能な面積、位置、海洋条件であること
 - ・ 作業実施者による区域の特定が容易な特徴を持つこと
 - ・ 周囲からの侵入が少ない等駆除による保全の効果が高い海域であること
 - ・ オニヒトデの発生規模に応じた駆除範囲の段階的絞り込みが可能であること
- 3) サンゴ礁修復事業候補海域
(資料5 - 3参照)